

揖斐川町消防団が

（勲）日本消防協会特別表彰「まとい」を受章

2月23日（木）、日本消防会館ニッショーホール（東京都港区）で揖斐川町消防団が日本消防協会最高栄誉賞「まとい」を受章しました。

「まとい」は、日本消防協会が昭和54年に創設したもので、規律厳正にして技能熟達・成績優秀な消防団が、技能を錬磨し、消防施設を充実させ、日本消防協会会長表彰旗・消防庁長官表彰旗を受章し、さらに全国消防操法大会に出場し優秀な成績を収めるなど、永年にわたり優秀な成績を堅持した消防団のみに与えられる国内消防団最高栄誉の表彰です。

これは、昼夜を問わず努力を重ねてこられた揖斐川町消防団の長い歴史が育んできた伝統と功績の賜です。

3月4日（日）には、本町通りで受章を記念してパレードが行われ、揖斐川健康広場アリーナでは、消防関係者など約600人が参加して受章披露式が行われました。披露式で、宗宮町長は「崇高な消防精神と強い責任感をもって、日夜献身的な消防防災活動を続けて来られ、まといを受章されたことに敬意を表します。」とあいさつし、橋本団長は「まといの受章は、揖斐川町消防団の長い歴史の中で活躍されてきた団員の努力

の賜です。この受章を機に、より一層の努力をお願いします。」と団員を激励しました。



▲揖斐川健康広場アリーナでの披露式の様子



▲本町通りでのパレードの様子

NHKドゥ！エアロビクス収録

運動で心も体も健康に！

2月7日（火）、揖斐川健康広場アリーナでNHK BSプレミアム（BS3チャンネル）の番組「ドゥ！エアロビクス」の収録が行われ、町内から約80人の方が参加しました。

エアロビクスのテーマは「美しい姿勢を保つ」で、参加者は、リハサルで基本の運動を学んだあと、インストラクターに併せて、軽快なリズムに乗った動きを見せていました。

また、番組の司会で訪れていたNHK岐阜放送局の浅野正紀アナウンサーは、揖斐川町極楽寺の出身で、番組の進行もアットホームな雰囲気

に包まれていました。収録された番組は、3月12日（月）と17日（土）に放送されました。



▲揖斐川健康広場アリーナでの収録の様子

防災対策強化プログラム

きたがた幼児園で学ぶ！

2月9日（木）、保育所などを対象に大地震など自然災害での適切な対応を考える、岐阜県の「防災対策強化プログラム」が、きたがた幼児園で開催されました。

この事業は、県内16か所の幼児園などで行われ、園児向けのプログラムと職員や保護者向けの防災講演会で構成されています。きたがた幼児園では、園児と保護者約100人が参加し、紙芝居や人形劇で避難の大切さなどについて学びました。

また、防災講演会では、防災危機管理教育事業コンサルタントの方を講師に、避難訓練の点検などを行い、改善点などを考えました。



▲災害からの避難を題材にした紙芝居

小水力発電機組み立て体験

～小島小学校～

2月15日(水)、小島小学校6年生42人が、農業用の水路を利用する小水力発電機の組み立てに挑戦しました。この取り組みは、小水力発電の普及や導入促進を図る県の補助事業の一環で、環境教育として実施されました。



▲発電機を組み立てる児童たち

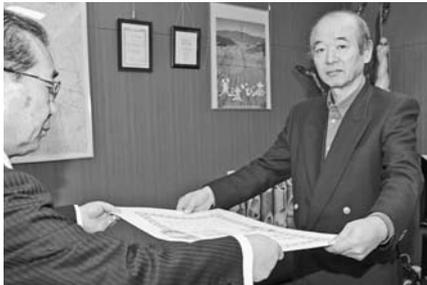
中津川工業高校の電子機械科3年生4人が講師として参加し、エネルギーについての講義を実施。その後、発電機を組み立て、学校の敷地内を流れる用水で発電機を設置し、ライトが点灯することを確認しました。参加した児童は「発電機を作ることが楽しかった。ライトが点灯したところを見れてうれしかった。」と話していました。この日作成した発電機4基のうち2基は、獣害防護柵の電源として町内に試験的に設置されます。

叙勲(旭日単光章)受章

2月17日(金)、旭日単光章を受章された折戸治男さん(三輪)に宗宮町長より伝達が行われました。

折戸さんは、昭和58年10月から平成11年9月までの長きにわたり揖斐川町議会議員として在職され、特に平成10年9月からの1年間は議長、昭和62年10月から1年間は副議長として、議会の円滑な運営に尽力されました。

また、揖斐川町の生活環境の充実、社会教育振興など地域の発展に多大な貢献をされました。これらの功績が認められ今回叙勲の受章となりました。なお、折戸さんは、叙勲伝達後の2月22日(水)にお亡くなりになりました。多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。



▲叙勲の伝達が行われました(写真は、代理受章された折戸浩志さん)

谷汲豊年祈願祭

～勇壮華麗な鳳凰の舞～

2月18日(金)谷汲山華厳寺周辺(谷汲徳積)で、豊作や家内安全を祈願する豊年祈願祭が行われ、約3000人の参拝客でにぎわいました。

谷汲踊は、源平合戦で源氏の勝利を祝った踊りが起源とされ、約800年の歴史があります。現在は、五穀豊穡や無病息災を祈る踊りと併せて谷汲踊保存会(会長 竹中義則)が伝承しています。

鳳凰の羽に見立てた長さ4メートルの色鮮やかな竹製の「シナイ」を背負った踊り手が胸に抱えた太鼓を打ち鳴らしながら勇壮華麗な舞を披露すると詰めかけた写真愛好家は、盛んにシャッターを切っていました。



▲谷汲山華厳寺仁王門前で奉納される谷汲踊

第2回ふるさと春日
フォトコンテスト入賞者表彰式

2月21日(火)、春日六合の「かすがモリモリ村」で、春日地域の自然・歴史・文化などをテーマにした「第2回ふるさと春日フォトコンテスト」の表彰式が行われました。

応募総数116作品のうち18作品が入賞し、表彰式には、2年連続で最高位の揖斐川町長賞に選ばれた石井真澄さん(垂井町)ら入賞者が出席しました。

石井さんは、「写真を始めて6～7年ですが、これからも良い作品を撮り続けていきたいと思えます。春日は、ふるさとの自然、山の景色など撮影ポイントが多い山里だと思えます。」と話されました。受賞作品は、「かすがモリモリ村」で展示されています。



▲フォトコンテストで入賞された皆さん



▲谷汲踊出演の様子（NHKホールにて）

2月25日（土）～26日（日）にかけて、NHKホール（東京都渋谷区）で「第12回地域伝統芸能まつり」が開催され、谷汲踊保存会（会長 竹中義則）が出演しました。

このイベントは、テーマを「縁」として、日本の伝統的文化や日本の価値を見つめ直し、地域の伝統文化等の保存・継承および郷土に親しみと誇りを持って地域づくりに取り組み、気運を全国的に盛り上げ、魅力ある地域づくりや地域の活性化につなげることを目的に開催され、全国から参加した12の地域芸能・古典芸能が披露されました。

また、NHKホールのロビーでは、地域情報PRコーナーが設けられ、揖斐川町の情報を全国に発信しました。

第12回地域伝統芸能まつり
～谷汲踊保存会が出演～



▲受賞おめでとうございます

2月23日（木）、岐阜県美術館で伝統文化の継承や振興に長年貢献した人をたたえる県伝統文化継承功績者の顕彰授賞式が行われました。揖斐川町からは、川上民謡保存会が「川上ほろろ踊り」の保存および伝承活動に取り組んでいることが認められ、岐阜県伝統文化継承功績者顕彰を受賞されました。

2月29日（水）には、保存会代表の杉坂好一さん（坂内川上）が受賞報告に役場を訪れました。

杉坂さんは「この賞をいただいたのは、ずっと昔から川上ほろろ踊りを受け継いできた方々の努力の賜だと思っております。苦勞することもありますが、この賞をきっかけにますます努力していきたいです。」と話されました。

伝統文化継承功績者顕彰受賞
～川上民謡保存会～



▲園舎の完成を祝って園児の太鼓演奏が披露されました

3月2日（金）、谷汲名札に移転新築された「たにぐみ幼稚園」の竣工式が行われました。たにぐみ幼稚園は、谷汲深坂にありましたが、建築から約35年が経過し、老朽化が著しいことから、小学校との連携を高める目的で、谷汲小学校に隣接して移転新築されました。

町内産の木材をふんだんに使用し、木造平屋建約999平方メートルで、遊戯室や保育室などが整備されています。

竣工式には、地元関係者ら約70人が出席。宗宮町長は「新しいたにぐみ幼稚園が、谷汲地域全体のふれあいの場として、また、交流の拠点施設として皆さんに親しんでいただき、地域の発展に貢献できることを願っています。」とあいさつしました。

たにぐみ幼稚園竣工式



▲野鳥を観察する参加者

2月11日（土）揖斐川の西平ダム付近で、揖斐郡内のNPO法人で構成する「いび地域環境塾」の講座の一環としてバードウォッチングが開催されました。

日本野鳥の会の窪田一仁さんを講師に双眼鏡や望遠鏡で、マガモやカルガモなどを観察しました。また、自然が豊かな場所で見ることができない、珍しい「クマタカ」も観察することができ、窪田さんは「揖斐川が自然が豊かである証拠です。」と話されました。

参加者は「寒かったけど、きれいな鳥が見れて楽しかった。」と話していました。

いび地域環境塾
～バードウォッチング～